認可日1995年8月10日　第三種郵便物許可　（毎週1回水曜日発行）
2020年11月19日発行　増刊通巻第8082号　SSKS　ストロークグループニュース

ストロークグループニュース

No. 49
2020. NOV

CONTENTS

・ＮＰＯ法人ストローク会　１Ｐ
◇理事会および総会を開催
・ストローク・サービス　２Ｐ
◇いまを逞しく
ストローク・サービス施設長　菊地裕子
◇コロナ禍でのストローク・サービスの現場の状況について
職業指導員　平川章子
・エッセンシャルワークを担う　３/４Ｐ
理事長　村木太郎
◇コロナ禍で思うこと　５Ｐ
生活支援員　都丸弘美
◇当会の諸活動　副理事長　金子鮎子
◇働く仲間たちからのご挨拶
職業指導員・久松直矢
・社会福祉法人結の会　６Ｐ
◇利用者による実習生指導
施設長　松田暁子
メンバー・ワンルーム／看護学生より
・ストロークグループ紹介　６Ｐ

ＮＰＯ法人ストローク会

◇理事会および総会を開催

ストローク会では去る３月27日付で令和元年度第２回となる理事会を、また、５月30日付で令和２年度の総会を開催しました。

今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、理事会、総会ともに会合での開催は見送るという異例の事態となりました。

今回の理事会では、令和２年度の事業計画とそれに伴う活動予算が議決されました。

令和２年度は、就労継続支援Ａ型事業所「ストローク・サービス」の運営を中核事業としていく一方、（公財）ヤマト福祉財団向けＤＶＤ制作や「つどい」、「日曜サロン」といった従来から行ってきた事業も引き続き行っていく予定です。ストローク・サービスにおいては、新型コロナウイルスの感染拡大によって先行きが不透明な中においても、事業の継続とパートナー（利用者）支援体制の強化を最大の課題と定め、実施していく予定です。同時に、慢性化しているマンパワー不足の解消に向けて、支援者側の人材確保に向けた動きも活発化させていく必要があります。これらの事業計画に伴う事業予算としては、過去最大の8400万円規模となります。

５月末には、ストローク会としては初めてとなる「みなし総会」の形で総会が開催されました。平成31年度事業報告ならびに決算報告、任期満了に伴う役員の改選と理事長の選出が行われ、村木太郎氏が理事長を続投してくださる運びとなりました。

新たな役員は以下の通りです。
（任期：令和２年５月30日から２年後の通常総会終結まで）
＜理事長＞ 村木 太郎
＜副理事長＞ 金子 鮎子
＜理事＞ 菊地 裕子、小張 和俊、小宮 容子
鈴木 幸湖、舘 暁夫、堂本 暁子
＜監事＞ 佐藤 宏　（五十音順、敬称略）

ストローク・サービス

◇いまを逞しく

ストローク・サービス施設長　菊地　裕子

令和２年を襲った新型コロナ感染症は、私たちが30年以上続けている『清掃業』について、あらゆる面から考え直す機会を与えてくれました。感染症予防と清掃は切り離せず、仕事はほぼ通常通りでしたから、どのようにパートナーの方々の安全を確保するか、職員たちは日々変わる情報を追いながら支援体制を変化させる努力を続けました。

その心労でヘトヘトな職員に対し、パートナーの方々は、いつも通りに日々の生活と仕事をこなしていたように思います。それは『仕事があった』からで、習慣化している『就労を含む日常』を変わらず続けられたことが体調維持につながったと考えます。

清掃業が体を動かす仕事であったことも良かったと思います。運動をすると気分がすっきりしますし、作業中は余計なことを考えずに済むという効果があります。事実、家では色々と考えてしまい調子が悪くても、現場で職員と体を動かすうちに体調が戻ることが何度もありました。

毎日清掃・消毒をし、職員がサポートしている『現場』は、コロナ禍の中では、パートナーにとって何より安全な場所と言えるでしょう。そこでマスク着用やソーシャルディスタンスなど、新たな課題を次々とクリアしていき、新たに習慣化させていくパートナーの姿はとても逞しく、共に働く『頼もしい存在』です。一方、通勤時や自宅、外出時などは職員の目が届かず感染のリスクは常にあります。

ストローク・サービスはこれからも続くこの綱渡り状態を、より逞しくなったパートナーの方々とともに乗り越えていきたいと思っています。

◇コロナ禍での ストローク・サービスの 現場の状況について

職業指導員　平川　章子

令和２年、新しい年を迎え、東京オリンピックをひかえていた今年の２月中旬頃から、世界はコロナという新型ウイルスが感染拡大し始めました。私達が自由に生活できていた日常が、色々なことを制限される日常へと変わり始め、ストローク・サービスの現場でも先のみえない不安と感染の恐れが続く日々となりました。

百人町にある現場では、緊急事態宣言中における時短勤務を許可して頂きました。職員はパートナーさんの感染防止のため、帰宅ラッシュに巻き込まれないよう作業を早めに終わらせ帰宅できるサポートを行いました。パートナーさんと職員は、毎朝の検温と体調のチェックをして、マスク、薄手の使い捨てゴム手袋を使用しました。また細菌やウイルスの抑制に効果的な『プログレスウォーター』という簡単で安全な次亜塩素酸水で、身の回りの除菌・消臭を行い感染対策をしました。

週１回の教会の現場はコロナの影響で３月より閉鎖されました。この現場に入っていたパートナーさんには有給休暇をあててもらい、収入を確保しました。７月に教会が再開したときには、仕事ができる有難さが身にしみました。また　現場へ行く電車の中、一車両に私一人しか乗っていないときがあり、世の中は″緊急事態宣言中″という大変な状況なのだということを実感しました。

南麻布にある現場では、「大変な時期に作業して頂きありがとうございます」と、住人の方からお声をかけて頂きました。このような状況で仕事へ出ていいのかという職員の迷いや不安が、それでも『人の役に立っている』という思いに変わり、大変励みになりました。

これから冬に向かい、新型コロナだけでなく風邪や感染症が流行りやすい季節になります。気を緩めずに感染症対策に取り組み、パートナーさんと共に頑張っていこうと思います。

ストローク・サービス

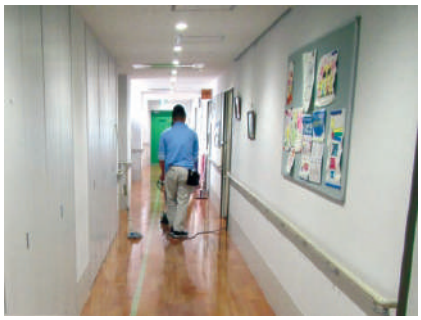
◇エッセンシャルワークを担う

大正大学地域構想研究所教授
ＮＰＯ法人ストローク会理事長
村木　太郎

４年間勤めた（公社）全国シルバー人材センター事業協会を昨年退職し、この４月からは大正大学地域構想研究所に勤務しています。研究所の月刊誌「地域人」に「共生社会の実現に向けて―だれもが「居場所」と「出番」のある社会―」と題して書いた中で、障害者が「エッセンシャルワーク」を担う事例としてストローク会を取り上げたので、ご紹介したいと思います。

共生社会とは、障害の有無、年齢、国籍などの異なるいろいろな人たちが、一緒に暮らし、お互いに助け合って生きていくことを目指す理念です。どんなに元気な人も病気や怪我で、あるいは老いて、人に支えてもらう時があります。支えられることの多い障害者や高齢者だって、それだけでは元気が出ません。自分たちにも地域と繋がる場所があり、社会を支える役割があることを実感することが必要です。一方通行の「支え手」と「支えられる側」ではなく、時には支える側と支えられる側が入れ替わる、そして、だれもが「居場所」と「出番」のある社会が、共生社会です。

そのためには、障害者や高齢者が支え手になる仕組みを作ること、すなわち就労の場づくりが重要です。働くことは、収入を得るだけではなく、社会と繋がりを持ち社会を支えることでもあります。全国各地で、障害者の菓子店や高齢者が営むカフェが商店街に賑わいをもたらしたり、障害者が伝統工芸や伝統芸能の復活の原動力や地元の名産品の開発・生産の担い手となるなどの活動がみられます。



ストローク会のパートナーによる床清掃

「地域人」では、後継者難に悩む農業と障害者就労を結びつける「農福連携」、障害者、高齢者、生活困窮者、引きこもりなどの生きづらさを抱える人たちを分野を越えて支援する「地域共生社会」などを紹介したのですが、併せて「エッセンシャルワーク」の担い手として、ストローク会の事例を取り上げました。

エッセンシャルワークは「人々の生活の維持に欠かせない仕事」として、コロナ危機下で注目されました。医療、電気・ガス・水道などライフラインの維持、交通網や物流の維持、ゴミ収集など、いずれも緊急事態宣言の下でも現場で体を動かさなければならない仕事であり、それだけに最近では敬遠されがちな仕事ともいえます。ストローク会がやっているビル内のオフィス・廊下・トイレ、外周等の清掃、ゴミの回収・運搬などもこれにあたります。ビルやマンションの掃除が行き届かずゴミが散乱しているところを思い浮かべると、ストローク会の仕事がいかに「エッセンシャル（不可欠）」な仕事であるかは容易に理解できるでしょう。

コロナ危機の下で通勤や仕事場での感染を避けるため、多くの仕事が取りやめになったりリモートワークになりました。障害者就労事業でも事業が縮小したところが多くあります。Ａ型事業所に対するアンケート調査によると、５月の売り上げは８割の事業所で昨年同月より減少し、３割近くは半分以下に落ち込みました。（「第２回全Ａネット　新型コロナ影響調査」全国就労継続支援A型事業所協議会）。そんななかで、ストローク会はほとんどの業務について受注先から継続実施を要請され、職員・パートナーが毎日現場に出向いて仕事を続けました。手洗い・マスクの徹底や三密を避けるなどの努力を積み重ねて誰一人新型コロナに感染することもなく元気で働き続けて、ビルやマンションをきれいに保っています。

感染の危険がある中を、徹底した予防策を講じながら、休むこと無く清掃というエッセンシャルワークを全うし、社会を支え続けているストローク会のみなさんをあらためて誇りに思います。

技術の必要なトイレ清掃

ストローク・サービス

◇コロナ禍で思うこと

生活支援員　都丸弘美

長く続くコロナ禍の中で、感染リスクが高いエッセンシャルワーカーとしてパートナーさん職員ともに感染しない感染させないを念頭に置いて就労に励んでいます。

新宿区内の公共施設や地域集会場など人の出入りが多い現場では、日常清掃に加え感染対策清掃を行っています。人が触れそうな場所は、除菌の為にプログレスウォーターを使用して１日に何回も拭いています。パートナーさんの感染対策としては、フェイスシールド、マウスシールド、使い捨てゴム手袋などを着用して頂いています。休憩時間には手洗いをして１メートル以上離れて座って頂いています。余談ですがパートナーさんの中には、フェイスシールド、マウスシールドが凄く気に入りプライベートでも使用したいと言う方もいました。

コロナ禍の中、パートナーの皆さんがコロナに臆さず就労して頂けて感染者が出なかった事に嬉しく思い感謝しています。これからも感染防止に力を入れながらサポート、支援していきたいと思います。

◇当会の諸活動

（株）ストローク時代（設立・平成元年3月）からストローク・サービス（開始・平成24年４月）に続く精神障害を持ちながらも社会の一員として働こうという私共の動きはもう30年余りになりますが、今年はこの流れが様々な形で紹介されました。

①　2020年２月29日　西南学院大学　舘暁夫教授の退官記念のシンポジウムに参加。

舘先生は、ＮＰＯ法人ストローク会の理事でもあり、私がヤマト福祉財団の小倉昌男賞受賞の推薦文を書いてくださった方で、長年の精神障害者の雇用の推進者です。その記念の会では病院から職親制度により施設を経ず雇用への道を付けられた沖縄の永山盛秀さんや、宮城の大場俊孝社長も登壇され、職親制度の意義やその新しい活かし方も話し合われました。

②　家族会の方々が中心になっている全国精神保健福祉連合会の「月刊みんなネット」５月号で『こうすれば働ける―わが社の取り組み―』が掲載され、関西のご家族からもお電話を頂きました。

③　もう一つは精神障害者リハビリテーション学会の機関誌「精神障害とリハビリテーション」47号に『女性初のテレビカメラマンから精神障害者雇用企業の経営へ』のインタヴュー記事掲載。

一時、ストローク会は同会の事務局も仰せつかっておりました。　（副理事長　金子鮎子）

ストローク・サービス◇働く仲間たちからのご挨拶

職業指導員・久松直矢

令和２年５月からストローク会に入所しました、久松直矢です。

趣味は護身術、ここストローク会に来てからはギターやスキューバダイビングなど多くのことに挑戦しています。

以前は柔道整復師をやっていましたが、福祉・清掃に興味をもち、入所しました。

福祉に関しては、中学生のときに職場体験で老人ホームに行ったことがありますが、利用している方が変わるだけで対応や接し方が変わり、職員として仕事をするとなるとまた違うなと痛感させられます。今は清掃中心で日々頑張っていますが、今後はパートナーの支援・援助が多くなってくると思うので、ご自身で出来る仕事は見守り、異変や変化があればそれに気づけるようにする適切な援助ができるようになる、ということが出来ればいいなと考えています。そして、支援をよりよくするために自分自身もしっかり考え、成長していけるように頑張っていきたいと思います。

今後ご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

社会福祉法人結の会　◇利用者による実習生指導　施設長　松田暁子

毎年実習にいらっしゃる看護学生さんに対し、2019年度より、講演活動の経験を生かし、利用者が実習の指導に当たっています。実習謝礼を工賃収入として作業売上に組み入れ、仕事としてモチベーション高く取り組むことが出来ています。看護学生さんからも好評を得ています。

例年この時期になりますと東京医科大学から看護学生が来ます。去年に続き今年もドキドキして待っていました。事前に看護学科の先生との打ち合わせに利用者も参加出来ましたので、スムーズに指導出来ていると思います。指導する側にとっても本当に良い経験になっています。（ワンルーム）

難しいステンシルに挑戦中

丁寧な指導です

東京医科大学看護学生２名が利用者の方から実習指導して頂きました。オフィス　クローバーでの日々の活動や作業の一つ一つを丁寧に教えて頂き、短い時間ではありましたが私たち看護学生にとって、とても勉強になり貴重な経験を積むことができました。ありがとうございました。（看護学生より）

ＮＰＯ法人ストローク会

★平成24年度から“就労継続支援Ａ型事業所”「ストローク・サービス」を開所しました。

その他の事業として精神障がい者の就労・生活に関する支援、ニュースの発行、ＮＰＯ全国精神保健職親会と協力して、就労に関する調査、日曜サロン”つどい”等を実施しています。
★会員数：賛助会員77人、正会員12人、団体２

法人本部／ストローク・サービス
〒161-0031東京都新宿区西落合2-20-16 POEMビル1F
TEL：03-5996-9533／FAX：03-3954-1130

（社福）結の会

★オフィス クローバー
（就労継続支援Ｂ型事業所）

一般企業での就労及び期間付きの就労移行支援の利用では自信が持てない人に、働く場を提供し知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。

〒169-0075　新宿区高田馬場3-18-25
第一康洋ビル7階
TEL：03-3365-4177／FAX：03-3365-4178
E-mail：yuinokai@axel.ocn.ne.jp
URL：https://yuinokai-clover.com

発 行 人：障害者団体定期刊行物協会　東京都世田谷区祖師谷３-１-17
編 集 人：NPO法人ストローク会　〒161-0031　東京都新宿区西落合２-20-16 POEMビル１F
E-mail：info@stroke-kai.jp　URL：https://stroke-kai.jimdo.com/
定　価：100円